

平成二十八年十月十四日（金）

古文書講座

「願書」

テキスト



大阪府広報担当副知事
もずやん

三．古文書を読む ～実践編～

イ．「川中家文書」について

川中家は、河内国河内郡今米村（現在の東大阪市今米周辺）で代々庄屋をつとめた家です。また、宝永元年（一七〇四）の大和川付替工事の実現に尽力した、中甚兵衛にゆかりのある家です。

昭和六〇年九月に、明治期のもも含めた六〇〇あまりの古文書が大阪府へ寄贈・寄託されました。それらを「川中家文書」として、大阪府公文書館で預かりして公開しています。

今米村・・・現在の東大阪市今米にあたる地域です。正保郷帳の写とみられる河内国一国村高控帳では高二八〇石余、大坂町奉行曾我古祐領。延宝五年（一六七七）～天和元年（一六八一）同島田重頼与力領で二八〇石余、天和元年の河州各郡御給人村高付帳では同高で同藤堂良直領、元文二年（一七三七）河内国高帳では幕府領、慶応元年（一八六五）より京都守護職領（役知）でした。

ロ．史料について

今回取り上げる古文書は、「川中家文書」の中から、「乍恐書付を以御願申上候」(KN-4-60)です。「願書（ねがいがき）」と呼ばれ、村・農民から村役人・領主に、許可を得るために提出するものです。

願書には本来、差出人の名前の下に印鑑が押されます。また、控えや下書きの場合は、「印」という文字を書いていることがあります。

また、願書の始めに「聞届」という印が押してあれば、願いが聞き入れられたことになります。また、願書の返書は、願書の裏面に書かれます。表面に割印を押して紙を貼付けて書く場合もあります。

今回の古文書、河内郡日下村の池端にある春日神社の修復にともない、春日神社の別当を務める神宮寺と日下村の村役人が、大坂町奉行所へ提出したものです。したがって、川中家がある今米村は直接関係のある古文書ではありません。おそらく、同様の事例が今後発生した時に備えて、今米村の庄屋が書き写したのではないか、と考えられます。（今米村の春日神社の別当も神宮寺がつとめている可能性があります。）

したがって、願書の返答にあたる大坂町奉行所寺社役人の文言が、願書の奥書のさらに奥に書かれています。

日下村・・・現在の東大阪市日下町、池之端町と、布市町、東石切町の一部にあたる地域です。正保郷帳の写とみられる河内国一国村高控帳では高一千八九石余。うち一千二三石が大坂町奉行曾我古祐領、六六石が旗本福留（富平左衛門領。蘇我領分（推定）は寛文元年（一六六一）より大坂町奉行彦坂重治領（宝暦八年村差出明細帳）。同三年、枝郷であった善根寺村が分村。延宝年間（一六七三～八一）は大坂町奉行島田重頼与力領と福留領の入組。それぞれ幕府領や上野沼田藩領を経て、元文二年の河内国高帳では一村幕府領で七三五石。庄屋は森長右衛門と河澄作兵衛がつとめる。

春日神社（日下村池之端）・・・正徳三年（一七二三）に大坂町奉行に出願して池之端の産土神となりました。明治五年（一八七二）に芝村の石切剣箭神社に合祀されたが、同一三年旧に復した。

春日神社（善根寺村）・・・真言宗東光山神宮寺という宮寺が別当をつとめていましたが、神仏分離によって廃寺となりました。

八. 読んでみましょう。

全容は二枚です。次ページ以降に翻刻を書き込んでみましょう。

乃要書天の清願上

本多豊前守領分

河世河内郡春日宮

川中
4
60

一 春日宮まじ社

大川 向横福三宮
奥行 或戸寺

一 山内寺面或百石 あり九町 除地

右春日宮に成る八千石に成る私別ありお勤天五石に成る寺付
成り春日宮に成る八千石に成る二保三保千石に成る
今山内宮に成る私別ありお勤天五石に成る寺付春日宮
宮に成る八千石に成る五保千石に成る寺付春日宮
以末社春日宮に成る大破に成る有る寺付春日宮
小宮に成るお勤天五石に成る寺付春日宮
作付に成るお勤天五石に成る寺付春日宮

河世河内郡春日宮

享保十三戊申年十一月

別高
春日宮寺

日向寺
旭寺

日向寺
次郎

御奉行様

右通相違ふ所あり

本多豊前守領分

申十二月

右田助
相本殿

右沈堀成り破損あり申年十一月七日に成り四月に成り
右ノ宮に成り破損あり四月に成り破損あり四月に成り
破損あり四月に成り破損あり四月に成り破損あり四月に成り
破損あり四月に成り破損あり四月に成り破損あり四月に成り
破損あり四月に成り破損あり四月に成り破損あり四月に成り

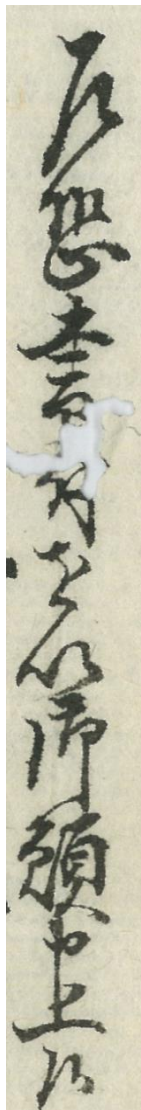
寺社関係
相井与寺人
生駒寺人

※「」の前の数字は、正確には。

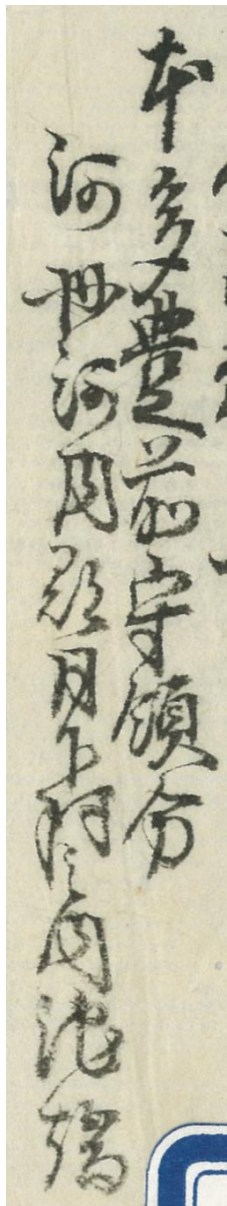
1 ☆解読のヒント・ポイント

1

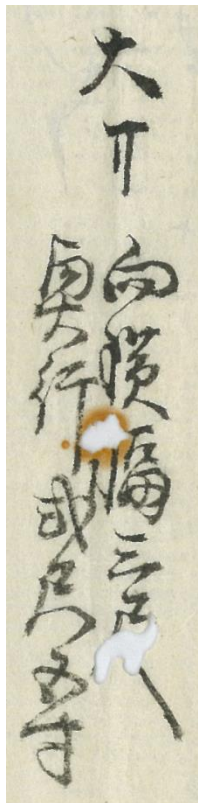
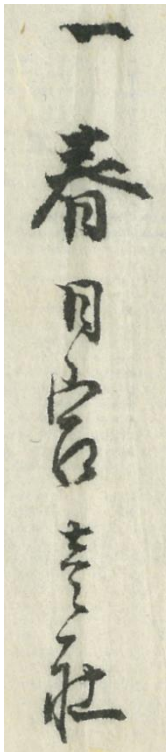
・四文字目が虫損で読みにくくなっていますが、典型的な願書の表題です。



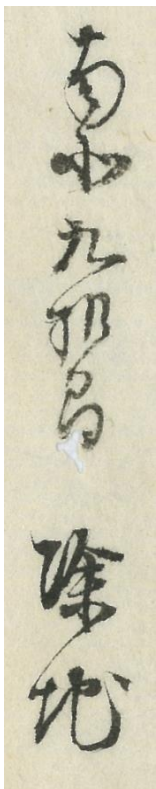
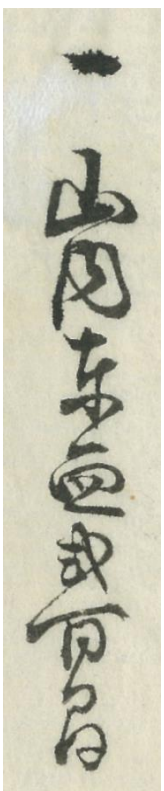
2、3



4



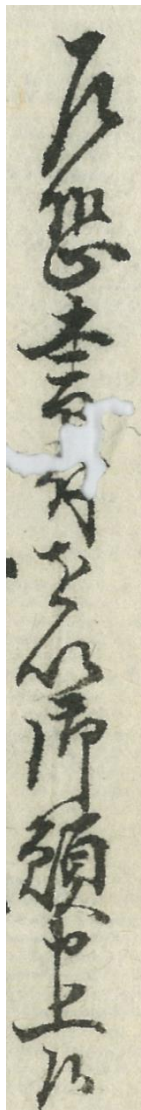
5



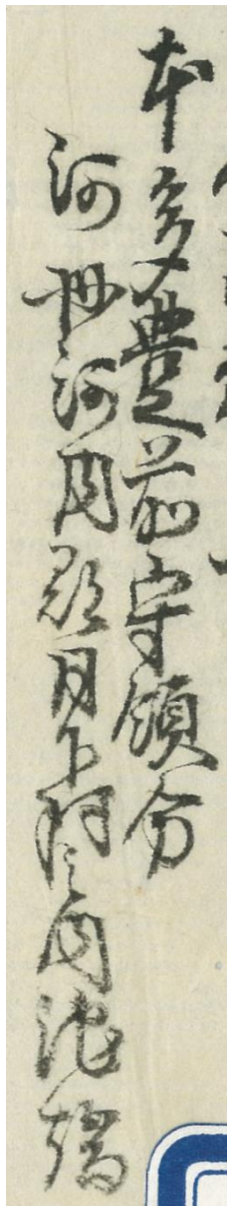
☆解読のヒント・ポイント

1

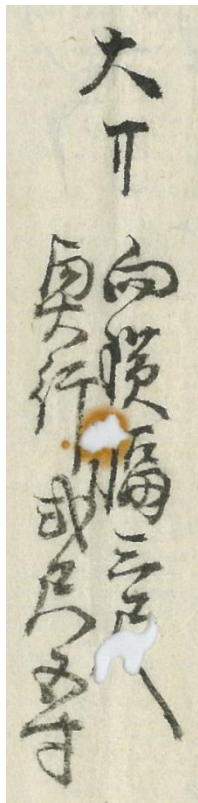
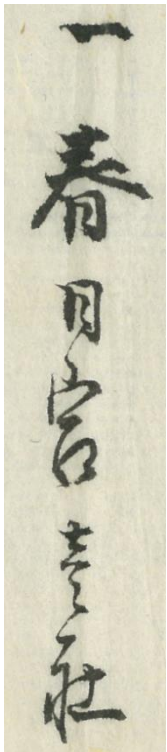
・四文字目が虫損で読みにくくなっていますが、典型的な願書の表題です。



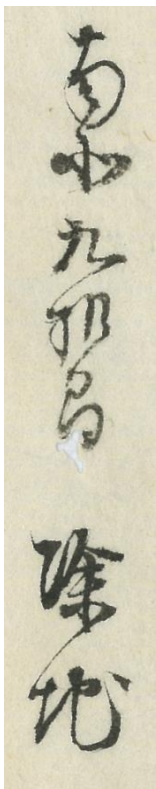
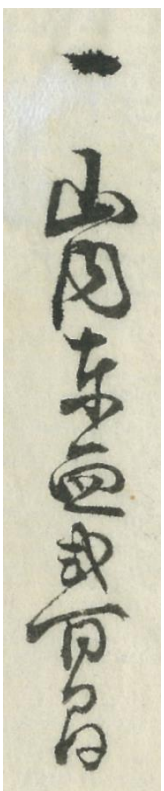
2、3



4



5



5.

・方角です。



↓ 門構えの漢字です。

右春日宮へ成る

[]

[]

え東私別ある節に在る

[]

左坂寺内

[]

成

[]

春日宮へ成る

[]

正保三年節成る

☆解読のヒント・ポイント

え

少しクセが強いです。一画目の縦からの入りは本来はないもので、横棒から始まる文字と考えるといいでしょう。

別



旧字体「當」です。

ある

☆頻出語なので、覚えましょう！

有

かなの「の」のついでに「有」が来るので。

あ

この文書が書かれたのは、享保十三年（一七二八）。正保三年（一六四六）は八十二年……。

あ

→「あ」のついでに「あ」が来るので。

方です。

8

今心あきれた新別当

お勤めな

右方報告時より月

君と彼と八年のあきれた

所々味を添へて

あきれた

10

あきれた春日宮

☆解読のヒント・ポイント

8

・あきれた

三文字目に「共」とあるので、一文字目
あきは六行目のあき（書）とは別の

文字で、複数系を意味する文字だと判断
できます。

8、9

・行をまたいでいるのでわかりにくいかもしれませんが、左の三文字で一単語です。

あき月宮

この箇所だけ、くずして書かれてあります。

・あき

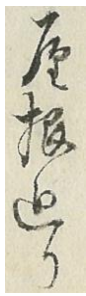
二文字目が「味」で、一文字目が「口」へちへん」の漢字の熟語です。

10

・あ

7行目のあきとよく似ていますが、別の文字です。

10

・

現在もこのような言い方をすることがある。



↓「出」も「へ」は「だ」「の」の漢字です。

11

・

二文字目、三文字目が「存候」ですから、文脈から「一文字目は」奉」と判断できます。

・

↓「門」の文字です。

12

・

↓これまで



と書かれて

きた文字を、一般的なくずし方で書かれています。

原根出り大破付りる

有馬氏寸法

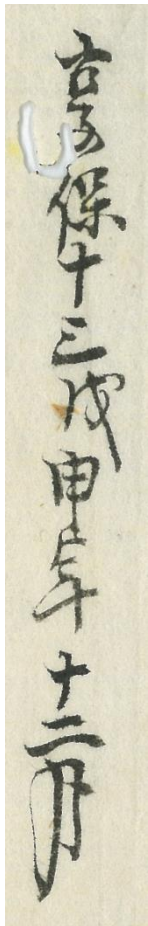
小宮屋

本間居る中一屋もるる

本間 本間屋

作付りる

新有るもるる



一文字目、二文字目は既出であるため、
おのずと三文字目は「寺」という文字だ
と推測できるのでしょ。」「寺」と似てい
るので注意が必要です。

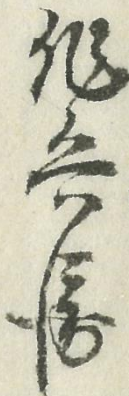
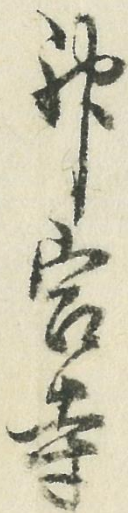
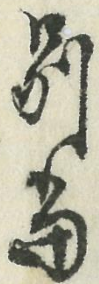
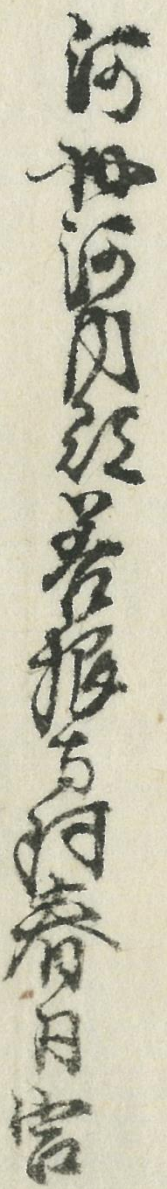


表題の「年」とは違ってたぐずし方です。
このようなくずし方で書かれることも
あるので、「年」の形は覚えておきま
し。う。



↓ 地方三役の「年」。

← 「同じ」を意味する「ニ」です。



22

右へ通相違ふ所あり

☆解読のヒント・ポイント
22
・奥書の定型句です。

相違
ふ所あり

23

申十二月

24
〜
26

申十二月

24
〜
26

申

「申」や「聞」のへんが「申」の
で要注意！

合内助な馬
お本殿を

27

右沈陽氏御破損

申十二月

最後の文字が「夫」なので、「儀太夫」となります。「助左衛門」の「左」と比べて三画目が右上に上がっていないません。

お本殿を

行ふ所は形くくみ

28

右ノ宮内様向ハ形くくみ

形くくみ

他郭地改

形くくみ

29

形くくみ

☆解読のヒント・ポイント

27

形

↓「買」です。

28

形

虫損で解読しづらいですが、次の行に同じ文字があります。

形

形

↓敬語表現（尊敬語）

形

快白

30

四古

31
35

寺社法度
寺細務方々振
久々五振
世開与方々振
生駒左方々振

多少クセの強い文字はありますが、全体をとおして基本的なくずし方で書かれているので、読めなかった文字は辞書で確認しながら復習されることをおすすめします。

「氏」と「此」、「寺」
と「守」と「間」の
違いに注意！



☆解読のヒント・ポイント

音

30

• 31
35

↓
敬称です。

寺西緣方抗

※本当の名前は「諸左衛門」



↓
解読難易度の高い文字のた

め、一つに絞れないかもしれません。

生駒彦左衛門

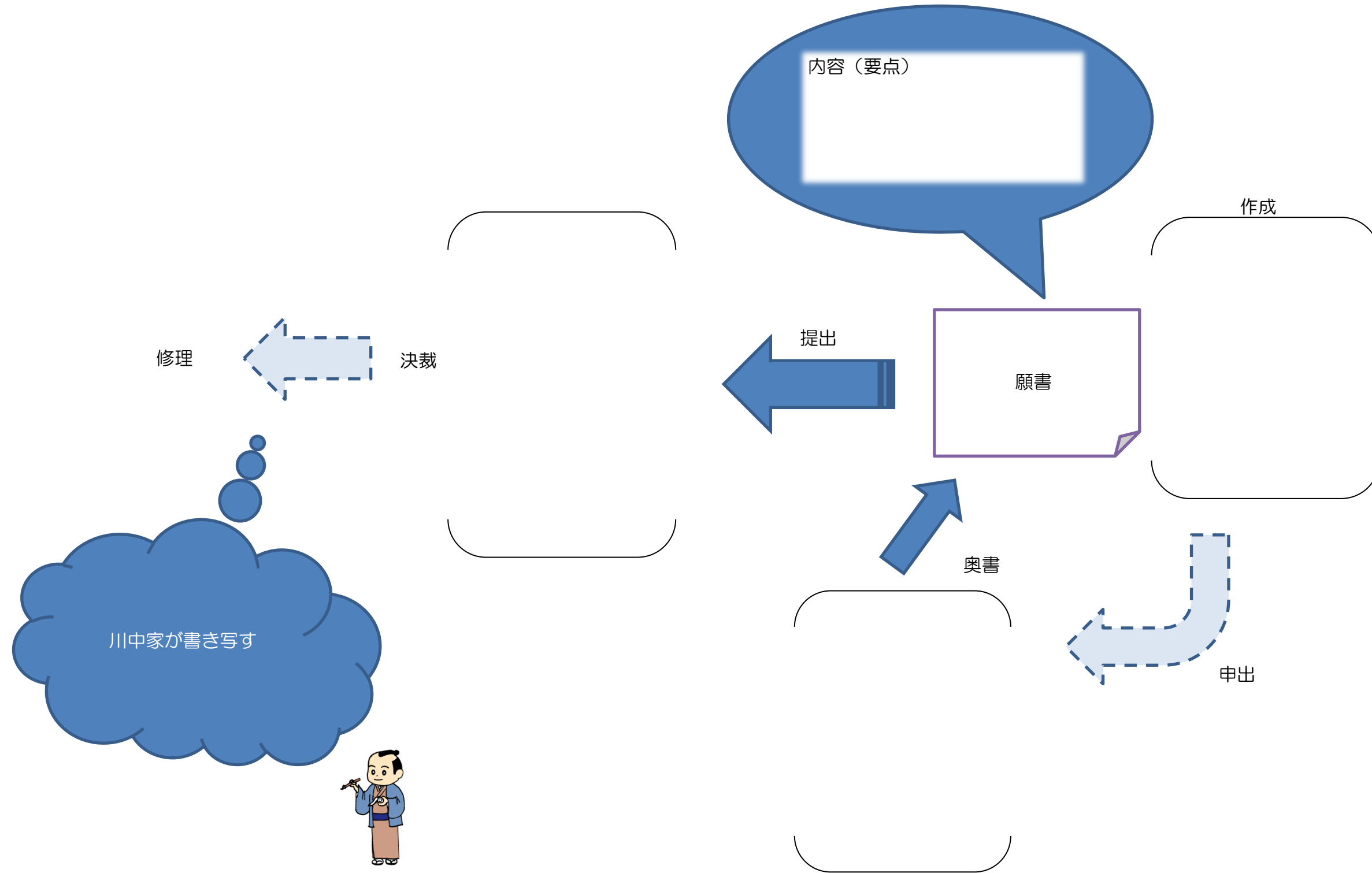
※「彦左衛門」と翻刻しているものもあります。

24〜26行目の「吉田助左衛門」の「左」と「松本儀太夫」の「太」を参考に解読してみよう。

二. 内容について

「史料について」でも触れたように、この史料は日下村が大坂町奉行に提出したものを、川中家が書き写したものです。川中家が書き写した時は決裁された後なので、その文言が願書に書き加えられています。したがって、一読しただけではわかりにくい全体像になっています。

整理するよ・・・



※「新地改ノ寸法」とは？（河内国日下村庄屋長右衛門記録』『日下村森家庄屋日記』享保十三年度より）

「（前略）新地改之ひかへ二八如左二有之候

春日宮 忝社 大サ 向横幅 四尺

奥行 三尺

山内東西貳百間南北九拾間

比勸請申候哉年曆相知し不申候と有之候」

ちよつとひと休み

・池端の春日神社の屋根はなぜ大破した？（『日下村森家庄屋日記』享保十二年度より）

享保十三年七月八日

「前夜よりノ雨終日終夜降続、終日風烈ノ別テ乾風烈、夜二入漸弱次第二風止ノ雲ハ終日飛かことく坤ニ落、風も丑寅風ノ間長シ」

↓台風襲来

被害…「綿たはこ皆辰巳ノ方ハ風ニテかたぶく、綿ノ蝶も少々落」

同月九日

大坂天満橋下で増水。（水常水より九尺高シ）

木津川八幡、橋本にて堤切れ。

・願書提出までの経緯

十一月十三日

文左衛門が池端宮の願書の下書きを持参し見せる。

十一月二十八日

善根寺神宮寺が池端宮のことで会所へ来る。

十二月五日

作兵衛・治助が同船して、七日に池端宮修復のお願いに御番所へ罷り出るため、今日から下る。蔵屋敷へ断りを入れていないため。

神宮寺と又右衛門は明日より下る。

十二月七日

池端宮修復のお願いに、作兵衛・治助・神宮寺が御番所へ罷り出る。

※十二月八日

「池端宮修復願、首尾好、昨日相済候テ悦事ニ今日は神宮寺芝居被振舞、」等の話を庄屋の長右衛門が聞く。

古文書

古文書解読の上達ポイントは、古文書に出てくる歴史用語や文体に慣れることにあります。用語や文体に慣れると、文章の流れから文字を予測することができ、『くずし字辞典』等で調べやすくなります。そのためには、翻刻されているもの（各市町村史の史料編など）を読むことをおすすめします。

ただし、固有名詞はその限りではありません。したがって、たくさん読んで文字に慣れる必要があります。

また、運筆を追うことも大切です。どのように筆が流れているかを追うことで、くずし字の形に慣れることができます。

大阪府公文書館では、今回テキストに使用した「川中家文書」の他に、河内茨田郡平池村（現在の寝屋川市）で庄屋をつとめた平池家の「平池家文書」なども所蔵しています。紙焼きしたものを閲覧・複写（※複写は有料です）できます。

【参考文献】

- ・岩尾俊平編著『図録 古文書入門辞典』、柏書房、一九九一年。
- ・児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』、東京堂出版、二〇〇二年。
- ・笹目蔵之助『古文書解読入門』、新人物往来社、一九八二年。
- ・津田秀夫編『図説 大阪府の歴史』、河出書房新社、一九九〇年。
- ・林英夫監修『はじめての古文書教室』、天野出版工房（発行）、吉川弘文館（発売）、二〇一三年。
- ・平凡社地方資料センター編集『日本歴史地名体系 二八 大阪府の歴史』P、平凡社、一九八八年。
- ・『大阪府全志』四
- ・森長右衛門編著／日下古文書研究会編『日下村森家庄屋日記』享保十三年度、日下古文書研究会、二〇〇五年。